

骨粗鬆症性脊椎椎体骨折について

金 明博

[はじめに]

世界でも有数の高齢化社会となった日本では、背骨や四肢の運動器疾患で、いわゆる「寝たきり」状態となる患者さんが多くみられます。今回は、このような「寝たきり」になる原因の一つである、骨粗鬆症性の脊椎椎体骨折(圧迫骨折)についてお話させていただきます。

[脊椎椎体圧迫骨折の原因は？]

骨の量(骨密度)が減少する「骨粗鬆症」が第一の原因と思われます。他の疾患による二次的な骨量の減少もありますが、大多数は年齢や閉経に伴う原発性(骨の代謝そのものに起因する)の骨粗鬆症です。これを予防するためには、若い時期からの生活習慣、食生活上のこころがけが必要となります。詳しくは、骨粗鬆症の題で、改めてお話させていただきます。脊椎椎体骨折は、この骨粗鬆症を基盤とし、軽微な外傷、もしくは日常の動作であっても脊椎骨に強度を超えた負担がかかり、椎体が潰れた状態をいいます。通常は転倒や尻もち、重いものの持ち上げ動作などで発症します。急激な背中や腰の痛みで発症し、歩行や体動が困難となり、病院に搬送されることも多々みられます。背中の中央部(胸腰椎移行部)で骨折することが多く、外見上、背中が丸くなる変形もみられます。

[脊椎椎体骨折の症状は？]

急激に発症する背部痛と腰痛が多くの場合の症状であり、背骨の中を通る神経(脊髄、馬尾、神経根)が骨折した骨や椎間板、靭帯により圧迫された場合には、下肢の麻痺症状も出現します。場合によっては、おしっこの出にくさや漏れといった膀胱直腸障害も出現します。痛みや麻痺症状のため、座ることや立つこと、歩行が困難となります。

[脊椎椎体骨折の診断は？]

患者さんの症状と診察所見に加え、単純X線、CTによる画像検査にて診断可能です(図1)。神経や椎間板など骨以外の組織の所見も観察する場合にはMRI検査を行います。以前にも椎体骨折をきたしたことがある患者さんでは、新鮮な骨折か否かの診断のためにMRI検査を行うこともあります。

[脊椎椎体骨折の治療は？]

第一段階は痛みを和らげるために、ベッド上の安静と消炎鎮痛剤による薬物療法を行います。当初から胴体のギプス固定を行うこともありますが、高齢者ではギプス固定自体の肉体的・精神的な負担が大きく、全身状態を悪化させる原因にもなりますので、付け外し可能なコルセット装着にとどめるほうが安全です。コルセットは作成に約1週間を要し、当初の痛みが多少とも軽減する受傷後1-2週をめぐりに装着し始めます。またこの時期からコルセット装着下での座位と立位の訓練を開始します。この時期は決して骨折の治療が得られる時期ではありませんが、高齢者では臥床期間が長くなればなるほど、痴呆などの精神症状が出現し、四肢の筋力低下も進行しますので、多少は見切り発車的に訓練を開始します。この間、定期的なX線検査で椎体骨折による変形が極端に進行しないかを観察する必要があります。圧迫骨折後の骨癒合には通常3-6ヵ月を必要とし、最終的に骨癒合が得られない場合もあります。この場合、痛みが持続する場合には、のちに述べる手術療法が必要となることもあります。

下肢の麻痺症状やおしっこの出にくさなどの膀胱直腸障害が出現した場合には、以上の治療では不十分であり、永久的に麻痺症状が残存する可能性があるため、手術療法の適応を考える必要があります。金属や自分の骨、人工骨、骨セメントを使用した固定術を行います。個々の患者さん状況をふまえて手術方法を検討します。手術方法によっては、患者さんの肉体的な負担は大きく、特に高齢者の場合には全身的な合併症の頻度が高いため、手術の適応と手術方法の選択は慎重に行うべきです。

近年、早期の疼痛改善のため、椎体骨折の部位に骨セメントを注入する「椎体形成術」が注目されています。欧米を中心に行われ、おおむね良好な除痛効果が得られる（8-9割の患者さんで有効）と報告されていますが、その適応と効果に関しては現在もいろいろな意見があり、定まった見解は得られていません。手術以外の治療法の効果と差がないという意見があり、肺塞栓などの手術合併症も報告されているため、信頼のできる整形外科医と十分な話し合いを行った上で施行するべきです。

先に述べたように、脊椎椎体骨折は骨粗鬆症を根本的な原因として発生することが多いため、治療後も新たな骨折をきたす可能性があります。再発防止のためには骨粗鬆症の治療も並行して行い、転倒防止のための生活様式の改善なども必要となります。

[おわりに]

高齢者では骨粗鬆症の有病率が高いため、常に脊椎椎体骨折の危険性にさらされています。「転ばぬ先の杖」の観点から、骨粗鬆症の治療を早期から根気よく行い、転倒などの外傷に気をつけるとともに、不幸にも発症した場合には、背骨の強度の変形や麻痺症状が出現する前に、整形外科での診断と治療の開始が望まれます。